



かこうち

田三才

和装本

^ 5
6486



85
6486



水月日の暮る日 西より

あまのこゝろをよむにふらふら市中
か人の店先はあまのこゝろをよむに
端はよきよきよきよきよきよきよ
おみねのよきよきよきよきよきよ
ふりてあまのこゝろをよむに友人の
よきよきよきよきよきよきよきよ



壽長年物
此集

此集年物
為誰席由

菅原社書

及古園扇集

孫生も二十のちりも七もとく
老をわくとい月も曉のり
手集結核のうけとく
ありもさくりもさく

月花乃か解わおとく
神 海山

如うそ出りも結りも
芳英

雪と解わ解りも海
成年

為時々物寐曾持やそ〜一斗 九部

水と来る泡を控流す柳、う雪 岳風

朝、千草の匂いを起あうら 丹波 九部

元山平日の照りきりの聲 丹波 月夜

露星の去月おねとふ雪のうり 丹波 馬良

露らりも毛吹く落るう 相一塔 北亭

り〜子ら喜のうち春のあさ〜
〜さきうおら友を返す聲〜

何時と〜さうなまきつのはねむ〜雪 大坂 淡波

あ〜かろはを流れる角力〜うれ 其山

築山と露の廣さやき月 尚 松隣

中〜汗の垂る能きぬ花好座 宋洋

二〜是うけし時〜雪州の虫 林常

散ら〜る花は上ねりゑるお〜 本鶴

小村〜うら子供の多〜雪の月 嶽兄

邦ありや多石を中より一の市
 神垣より人すの若やんら此林
 けり月やや干きある願ひ
 涌子の掛もろくさ近ひ船
 数いふす唯ひは来り夜那
 漁の甲斐なき燈姑坂也の那
 物の海に水節つるる若きうね
 孫くきけハ角なき音なきあらし来

素原
 景寺
 斑沖
 杜鴈
 寄風
 寄宿
 光林
 乙語

法親もも せうもさうさ けめ神若
 紙心

嵐山、夜泊

世のあや月なきおとろ戸もも
 余は申きもやとをくけの給ふ
 屋敷や川をよりも 低心家
 崎うへんをさけり 物うなまき寸
 幾まもつらつら 乱さぬお操うね

伊丹 曲阜
 三四 終岐
 河内 此方
 紀伊 深形
 景峰

傘の端もあつゝ一為如月 法信 四 弄原

髪申へく竹も用なき空の草 生谷

芭の葉もまゝと緋 那と一 吟蛙 石波 鹿更

麦林や涼へ出れと 夏祭り 風樓

蓮の葉や早澄さ 出ま 明物 紫紫

折と灯の木涼も世のそとさうれ 涼枝

んゝまゝの心も 涼の心葉の心 万俵

長あやのまあるら 嬉しき折傘も 辰推

坂松や恒りゝまゝ 留古は 禮 鳥谷

休りゝ 澄澄うまゝ 書り林 木長

梅の葉や 白招体い の 雲生 霞 伊橋 映門

招りやの 雲の中りゝ 岨の 世 卵角

恒火や人まゝをのら 可き申 紫人

破もゝ 風情過り 芭蕉哉 紫居

雑魚ひらあゝ 如月の 杉魚の 心 土佐 量屋

酒のい絲や白い巾 近江棚
近江
 在時分の暮る中々りそ 故をこけ
 口ひくく土急 露や夕一うそ
 暮のうけかろうも 暮ふや文行り
 暮よおのいそ うれうき 梅うれ
 控子や 暮き 暮れ 暮れ
 暮の暮を 暮つ け 時 暮る け 暮
 礪山 玉 可 蕙 月 楓 倉

似て 暮の 清い け 暮る 暮 部 け
伊路
 暮のうけや 月をも 暮る 暮る け
 暮人 け 暮の名 暮る 暮の 暮
 暮あうや け け 暮れ 暮れ 暮
 暮ふ け け け 暮れ 暮れ 暮れ
 暮の 暮うらうら 暮あ 暮の 暮 暮
 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

海苔味を禁もの干衣印月が
 嵐付
 野の田も水廣うまき
 日松
 中あまき世結果やとわたり
 踏河 翠山
 清木や梅き記さる川のも
 南輝
 望の想をとり世果あし思緒月
 俗光
 和色は清吟うまや古の犬
 悪く
 阿るのきり風の吹りききうれ
 見後
 空結さる奇悪きる河うま
 漣山

惜儚のきつる藤のきりきり那
 笠村

和田崎

夏夜くやま過りく嶽う那
 甲斐 軟丸
 ふたれと白き牡丹のきりきり南
 孝也
 ともも結ハ何も南嶽一衣
 空望
 何骨や漏りよまらむむせ一川
 百結
 おらその貝壳ふし秋の風
 行徳 蓮柳
 春陰や雨まねりりあのとく
 幸和

出下、これ、
 任家もある
 切や
 是依の
 瑞
 言
 井戸
 西
 晴成

水す
 暮き
 中り
 り
 菜
 芦の
 名月
 出る

ね〜〜〜〜ね 柳子 宿〜〜〜家 柵の 籠 鳥 哉

田の上をひ 移〜〜 や〜〜 や 初 新 娘 山

別所 登 牡 舟の ありきを 恨 ぬ〜 芦 風

輝〜〜〜〜 ち〜〜〜 清〜〜 や 明の 鐘 若 兮

風 風〜 申〜〜〜 ち〜〜 木の 葉〜 丸 完 哉

何よりの 手 拭 ぬ〜 や 臨〜 ち〜 定 尔

早乙女 や 浪 子 海と ち 思 ち ち 兮 古 眼

兄や〜〜〜 ち〜〜 ち〜 放 ち 兮 月と 梅 柳 毒

河 邊 風の 起 ち ぬ〜 籠 結 松 北 山

十月 中 懐の ち〜〜 兮 懐 結 壳 悠 西

並 柳 中 懐 子 懐 結 ち〜〜 屋 結 忠 字 丈

梅〜〜 中 幹 へ ち 若の 生 あり 兮 丹 衆

別時おとく小敷や二十と牙

結句

風吟

春風——松のとききし門乃月

竹塙

夜を火や答難思きやう旅法師

呂風

卯のやや結何ききし是の冷

出句

古橋

冷をい帯る折こり滑戸よ鳴千鳥

源前

けきや若信く申く極本奏

古翠

も結たし思やう床るやうの布

二並

千丁地々傘の上あつた露くれば

松花

さうもあらわし格おきしこつてもあきあき
まの男のたう川に思ふは時あきおき

菰苗の穂古をあさう月おこり柳

古翠

手を洗ふ水の冷くしつきのそと

このめ

茶の室結静くさよ鳴いしうや

二系

露をもつ露ハくえは床うし

其儂

抱おと澄結の地やきき結句

室空

るふまの雨よあつたやうをら空うけ

所風

地ついでに舟ももええと春乃水
 岸河
 磨如百姑さくしとや春の月
 心河
 戸ノ里をえはまを鳴水館のれ
 梅唐
 けをるもの手進は物や初に暮
 一止
 山吹中船をえ送る 船きとい
 永月

漁翁

人新に神のつあく春のう那
 南函
 馬より舟魚を荷能る夕月お
 空才

申くは船に知人あは清水うれ
 江之
 川あは挨拶をたせと下那
 之船
 岸を舞もはつは船とを初ま 船
 清素

舟のきも居静まりぬるは月
 一南

舟本の送きくく舟藤の花
 楓冥
 舟のあきあき甲は小家うき
 道雄

冬より夏 路のいろはの栞ひきり

雪登

大森や波らけ 梳も蟻の籠

芭井

月餅やまゝ 魚はまゝ 新のまぐ

嵐高

夷薩人の碁のま 栞のいろは

上元

風石

陰弓堂の騎馬新しき二月来

木上

あつちりも代りまゝ 和布一の電

西馬

川そのいかにさき月ま 唯ひきり

常陸

野原

常いちをまろく 落る虫の糸くれ

友甫

人も出虫卵を屋敷のま 如里の那

瀬井

人聲の柳をまゝ 細糸霧

一北

喰つて中 扱毎にまゝ 娘の君

下徳

汀所

余はま 扱も扱も 如く 時分

之程

夕月や 扱らり 下々 栞 時分

新

何れも成はるあり世に此聲 山影

一日の留ちも本意解 市上弦の如 雲

面やうも好まき如く 平席耳存 音人

ふふきうと思ふわとあき 極う存 峰片

夕立の来り去りき 危思り 金波

利きまうき 始終持き 松魚くれ お原 示 燈

うつくしと我ま ころり 平春三月 智 園

招き人を見人 結きくろ 舟お世帯 舟見

箱中

おきくし 束巻く 雨乃枝 性 お持 立 宇

六月や 束をまつ 町のそき 掃 除 植 立

濱の浜う ちあひ 中 雲 結 門 如 く

何や ぶく人 まきき や ころり 乃 白 白 鳥

薔ごうり ころり ぬ 蕨の子の 存 薔 水

空ち おもと ねと ころり 好 林の 月 本 籠

千端	武藏	河や雪のうま	ゆふも又おあ
五後		籠人の身もあまらう	玉ころり
其内		摺子や取しを折る	なまあ
此外		其木もさうく	ぬうや椽欄の
本測		高もさぬ	風のあふ
寿三		えりや右あ	まら
右齡		川年のさ	申る

右神		さう	の	あ	る	の	あ	ら	う	の	あ	ら	う
南		井	の	あ	ら	う	の	あ	ら	う	の	あ	ら
湯花		申	つ	の	あ	ら	う	の	あ	ら	う	の	あ
青		今	の	あ	ら	う	の	あ	ら	う	の	あ	ら
本		あ	ら	う	の	あ	ら	う	の	あ	ら	う	の
水		あ	ら	う	の	あ	ら	う	の	あ	ら	う	の

唇 毎子 只つ 火りら 新 略の 春 江戸 風 朗
 むら 白り 春を 清き せうく 寸 永 久
 新 顔ら 是 此の おひを 巻く くれ 一
 ひと ち 傳は 春の 踏ま ちや 新ん 係 春 吟
 昔 刀も 多 是も 憚む 長し くれ くれ 子 富
 鳴り 魚 鳴 鳴らり 唇の 平く せうく 一 呂 岐
 新う ちの 界く ち 武 夫の 答く 那 遠 剛

詠中

何 何く 是も 世やも 新 一 春 新
 此 春の 梅は 初き 一 秋 明く 那 梅 今
 新 一 きた 付 初き 一 秋 一 春 一 春
 烟 打の 紅も 一 春 一 一 春 一 春
 春の 白く 一 春 一 一 春 一 春
 撮 撮く 花は 遠く 一 春 一 那 春
 何 何く 一 小 里 一 雪の 新 一 春 一 春 園

ありけりやんこ中夜や宵折中
 雲彩は空を湛ゆる藤花 曉
 隙を起る昇るを湛ゆる秋の露
 時を白くも晴くも返付 松平 鶴
 芳州を角より帯より 明の露
 鶴の多算を獲るも懐結の表秋を
 ありきとも其生の獲るはくは一羽あり
 中夜や宵折中の面 白く
 涼風

朝起け戸を立ちのちる 若加那
 海は新きくもたしや 乃の美
 古歌のちたやらのをいづく 集りれま
 七夕のちこ 曾於のち 更子 七子
 石をれも枝のちをちり 芭蕉 在
 留まの戸はまひくも ちき 柳 仙
 ち候へ 家内 ちくちく おりん 旭
 魚の方へ 先 出 ちあふ ちくち 松

唄よりよーりた交る茶摘り軒
 晴さる古のきひー一冬は月
 数ちや山吹りあはれ御舟登
 あく壁の中はこ宿のゆきーうれ
 床よりも幸ひきーはるの如き
 ふ急やさー如きはれーふも
 もはあーくきーりた舟ー井の巡り
 まのーややあらりてをうら表
 万古 善水 了枝 夷則 大抵 隆々 能々 湖十

唄あはれいさーくく劇の戸の
 幸やあはれいさーくく劇の戸の
 まあーくく市中のあはれいさーくく
 明あさおは遊るれさー小盗人
 孝餅は片やせーくく屋は儀
 叔の自やあはれいさーくく
 障のけさるるは移りーくく
 まれーくく憾もさーくく戸口うけ
 金倉 一具 善水 尾村 能々 金倉

いづのまよ白ひあふや大相引
響うまふれも新角力取
紫陽せやうの流ひさきまの色
扱のうらまききけふや若の自
さきまねのりりり舞の汐干が

小 杉
石
波 鷗
春 露
権 位

市中のまゆひを田家よらう
まはあう粒々年若をらう

お新しきまねのりりり舞の汐干が

由 摺

市の子やあまあうそ尋ら歌
難拵おやうも持つき鐘の鳴
杉子樹かこころや
それあまうのたえそ孫をが
船へえし土橋の裡やう
筆の敷も醒るや佛生念
茶梅や花月ま自は際
春うらまききけふの流ひさき

丁 知
言 山
味 倉
赤 巨
枝 玉
叩 月
万 頃
南 枝

河野先生のあひ一考中部 上 湯島

藤井法中のおれり藤井 松丸 濱吉

秋之川の中帯のら 杉の本末らり 昌川

数嘆と早末らり きむらあ、うれ 相計

少年り

河合あゝ水う帯るる 吾うれが 原部

晩や岩あけり 蕙花うあ 右乙

川 ぶら破らるる 骨乃 留 由之

俳諧のあゝ中、うそん 粟花也 大英

吹簫う 耳う 顔あり 秋乃 柳取

うそん 蓮やあゝと 垣根のり 謝堂

曳船の波をまぬり 扱るうれ 至又

ふきく 笠林ら 妻やうの白 石居

引明のせあう ねるるあつら 尾山

唇う、うら せそ 外 末山

遠眺り 浅き 市 換の 兄外

いづれははなはたあやうしと初筋子

碓氷

二ふらのるよまきれや秋のり

ちのき

ふせきははなはたあやうしと初筋子

巨三

初筋子曲突の虫を初と縄

谷形

春の被う秋のものうしと初筋子

護岳

海原の信子あやうしと初筋子

呉城

春の被う秋のものうしと初筋子

仁宝

晴あやうしと初筋子

本比

初筋子信子あやうしと初筋子

海

立先子新すく向あやうしと初筋子

公柱

吾都修の信子あやうしと初筋子

出干や後のちりもあやうしと初筋子

秋香

せきあやうしと初筋子

樗由

今月もあやうしと初筋子

沙谷

見るとあやうしと初筋子

惟州

秋をばまゝの如きを高く月おのれ 魯心
 身とそく多引由守やんと身 一福
 木のけいやいそく身と人むけ夫 水壺
 かなとそく身とくうとくふ産子 正覺
 川うへんそく魔とく部と 把儀
 身とた息甲結とくや妻の林 折桂
 川ぬきや時定候しとく一井 新少
 子供もまた禁制とく身と家 山外

留別

旅枕きくむる朝やわつ 柳 新川
 石丈 石丈
 右の人はふ甲とくしとく給とれ 素縁
 石丈素縁の由夫結と海乃
 石丈
 子能や腰うり身とくしとく身と 徳彦
 おふ一時
 即ちき付世とくしとく身とく 五株

水滸やいづれもいづれも 相生 桐 杜 有

船も舟も使もいづれも 移り 那 徐 有

裏山の裏のまへにやまの 石 只 濤

旅人のまへにまきけりまの 月 万 里

冥夜も如く 夢いづれも 結 山 素 明

鐘舎や 鐘もおん 鐘も 妻 堂 人 助 宿

手も空とて 花もいづれも 山 の 谷 濱 高

松 緑 一 葉 何 何 城 中 後 の 月 大 鵬

お首もきり 花もいづれも 杜 有 古 高

あつ 如く 如く 如く 如く 月 堂 急 々

あつ 家 出 出 出 出 出 出 出 出 梅 堂

申 入 入 入 入 入 入 入 入 入 恒 菜

採 萱 曲

危しや 手もきり 花もいづれも 船 庭 流

葉ありや 門も 花もいづれも 舟 渡

朝顔や 花 罅 子 宿 子
 うき草の 片 草 草 草 草 草
 川 水 の 中 を 押 寄 け 寄 け 寄 け
 滑 走 下 細 音 々 々 々 々 々 々 々
 紫 陽 花 や 佛 供 々 々 々 々 々 々 々
 白 浪 の 寄 け 寄 け 寄 け 寄 け 寄 け
 星 合 中 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 子 燈 籠 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 章 倉 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 弄 化 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 信 義 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 龜 六 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 阿 々 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 百 丈 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

人々々々々々々々々々々々々々々々
 一々々々々々々々々々々々々々々々
 酒 出 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々
 おの 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

餅 搦 中 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 為 山 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

杖 曳 々 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 寄 了 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

西新谷

寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄
 波 同 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄 寄

三郎の「雪」見立書 四月九日
ささや 柳 石 松 杉
吹雪 柳 杉 松 杉 水 可 大

宗祇法師横前

雪 柳 杉 松 杉 水 可 大
山子 柳 杉 松 杉 水 可 大
柳 杉 松 杉 水 可 大
石 松 杉 水 可 大

路 雪 の 三 郎 子 返 書 や 宗 祇 横
い 雪 の 三 郎 子 返 書 や 宗 祇 横
高 色 三 郎 子 返 書 や 宗 祇 横
志 雪 の 三 郎 子 返 書 や 宗 祇 横
見 雪 の 三 郎 子 返 書 や 宗 祇 横
石 松 杉 水 可 大

俎板の形は、わの字か形 一具

入る人、柄の形、形 古

骨の籠も、家城一の骨、漆、如草

見よ、名、銘を、やう、柄、中、具

晴る、や、柄、も、漆、の、点、小、理、月、古

柄の、漆、も、柄、柄、柄、一、草

子造りの、漆、も、柄、も、能、計、具

親子、漆、も、柄、も、柄、柄、柄、古

田柄、も、漆、も、柄、柄、柄、柄、出、一、草

柄、も、漆、も、柄、柄、柄、柄、柄、柄、古

お、柄、も、漆、も、柄、柄、柄、柄、柄、柄、古

柄、も、漆、も、柄、柄、柄、柄、柄、柄、草

柄、も、漆、も、柄、柄、柄、柄、柄、柄、具

柄、も、漆、も、柄、柄、柄、柄、柄、柄、古

月影もなきうきうき又は

願軍——く年——を

お菊もせは吹雪の板敷

谷百王のうきうき

四郎もおのらねハ音こ

串の修出来急お燈立

男といふ息世帯のうき

文巻き——ふうやい

草

具

古

草

具

古

草

具

今も子懐おつるお

今も子懐おつるお

川との海たやうな水の色

土蔵の番詰り入

何頃やら住居言ひ草

踊の中へ月丸く出

分おけつるお葉のゆり

拾ひ入のおき板の

古

草

具

古

草

具

古

草

葉打を智神の鏡世亭
 年深もらき事姑總代
 各長高ちち等々々の後肩のり
 せん浦やせりあり抄せを望
 杉のり枝子新く程のりき
 口のりも伸り一節乃水
 具 古 答 具 古 具

春くひ之御や春の枝梅一本
 東風のふも里は枝りまふ
 意例の足代をのり進のり
 産石申り然る後相乃枝
 産くは枝産もりのり思意あり
 さいのりこのりく月如舊際
 山 外
 如 草
 滋 産
 外
 草
 芝

山坂も保菅、うそら能茶 堀

外

芽子まきと女、常の如い

草

お樞子、之人喜、福如け

黄

傘、き、く、耳、く、く、杜父魚

外

元船、一、五、子、何、ら、去、お、と、中、状

草

多、く、う、節、く、お、る、丸、右、あ、ふ、取、之

黄

月代、子、あ、く、話、お、し、く、前、と、と、今、

外

前、後、ま、く、く、あ、ま、お、お、冷、法、く

草

地、村、く、く、も、何、子、為、く、祭、ま、く

黄

う、く、く、く、を、喉、く、お、く、思、く、握

外

誘、一、羽、見、く、く、く、あ、く、く、今、お、書、其

草

女、や、大、お、お、く、く、春、の、中、く、く、あ

黄

姉、く、く、く、子、供、集、く、く、剛、何、ら、と

子

お、焼、お、く、く、く、く、お、思、く、く、石、深、

草

思、く、く、く、く、お、お、く、く、く、の、思、く、く、く、

黄

お、心、お、く、く、く、く、お、お、く、く、く、く、

子

家懐も 室へ 糸と ね紀 弁古
 毛虫 結 踊る 以て 君き 日
 家毎に 撫弄を 竿に 掛る
 扇を のも 釋多を くの 切
 結の うちの 煙管の 物係
 波は 高き 志や 止ハ 結
 月の 影う 刻く 見え 下 結
 活し 芒の 地ら 夕 風
 貴 答 子 貴 答 子 貴 答

稲色も 一 暮る 何る 湯 浴 室
 今に 清き 碧の あそ 友 各
 已結の うちの 神 國を ぶ 結
 人の うちの 枕 如き 結 井 戸
 櫛 結し せと 粧 あり 咲き 結 じ
 扇を 舞ふ 結 あり 加
 貴 答 子 貴 答 子 貴 答

園をよみし初る小倉を

秋の船乃や舟をりし

系室の竹籠つとて此處

家毎掃除のやうに

昔もあつたはるし出書内

其う手紙を共讀し

母親よりやうに

職おほしき婦の旗

山

山

山

山

山

山

山

山

隣にききし婦は

申すや新くあや

山宿のさすの

城のお庭もさけ

五年目子あは

杉子やうに

切らるるを

後祭を

山

山

山

山

山

山

山

山

新寄書一送結止り麦糶

号

いづの月より卵やまゝ籠

山

就一節より机より換り一ト挿入

号

むあらしよりく状の刺き

山

やうあけし家の中よりふり籠

号

田保拾いの睡床より

山

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

明くさるるり星を燈末より那

号古

着結屋より子孫思多前

如年

暗の序より詠へ種を空より

淡高

心師より節より書表白片月

古

曉汗のあき加衣よりふり書い柄

号

いづるも神より物より結度

高

小袖もあつく六の着揃うをいふ
 小屋さうら加の出さうふ
 子にのこるききいふは算
 燈篭を杖さうあうくや立
 徹さう加法籠の中は黒小袖
 子輪田の町は人初とあま
 月うけさ算あう算のもの歌い
 春外足をかき新林は坂
 高古 高古 高古 高古 高古

母の船の玉子さうあまを語る
 新うひつさき市は春高
 ときさう遊包はあまを引く
 あまむ申入への冷あまを飲む
 吹草焼くまこれあま 春
 七日さうあまをいふ
 牙ハ母はあまをあまをいふ
 糸さうあまをいふあまをいふ
 高古 高古 高古 高古 高古

埋生をあん煙より火を中かき

高

煮きまのけし時より新

古

まのやいぬをききし時

古

畑ハヤと一 貴山の畑

高

鳥羽玉の言は幣あり字より

古

柳生の穂や赤く遊ん

古

あしや籠りしんりし

高

拾りし船の忠一を納月

古

新編はこゝろ赤山の名をつた

年

地流の算ふらり果然

高

枕灯のあつを^{キッ}物^ハやうと

古

まらきり折る坊の忠兵衛

古

米号は人し通きし世の宿

高

葉をまきしん折る乙

古

冬籠の朝をさびしう

おとつし人よあそび

あつししあそびあそびあそびあそび

由誓

燈はさしし向ふ縁の思ひは

如誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

月をあそびあそびしほ橋おろし

誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

何れ申す彼岸あそびの縁

誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

あそびあそびしほ橋おろし

誓

ゆき、雪、夜本のくま、星、月

春、を、うき、る、一、桐、の、あ、く

難、魚、の、お、う、ら、忠、集、の、際、つ、い、え

親、子、連、一、く、と、く、板、東

於、六、名、ま、む、の、や、ま、れ、忠、答、り、色

日、病、ま、る、く、東、風、の、止、ま、際

併、の、候、最、夫、と、先、は、蝶、舞、て

帰、馬、の、ま、い、見、嫁、を、ま、り

撰

撰

撰

撰

撰

撰

撰

患、吐、一、時、も、右、義、不、病、く、り、り

孩、心、と、お、は、未、ま、り、ら、く、ら、く

以、く、五、や、好、く、ま、高、詠、次、の、健

言、一、神、酒、を、ま、け、く、く、く、く

年、の、唇、過、く、船、結、入、お、湊

西、の、吹、り、り、あ、ら、申、く、新

く、く、ら、う、い、春、省、の、折、と、う、刀、も、あ

あ、く、く、く、咳、は、あ、や、く、く、は、出、る

撰

撰

撰

撰

撰

撰

撰

撰

寄 今 夕 京 の 月 光 満 月 の 白
 露 白 雲 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 角 力 場 中 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 万 字 海 中 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 満 海 の 中 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 羅 漢 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 ハ 音 似 々 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 眠 子 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

解 之 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 鳴 子 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 遠 来 の 物 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 干 魚 の 味 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮
 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮 暮

初宮の押さひうけあり悔つり
 在途を控へた杖突く出
 人あま出投けつりるりさ
 酔ふく吐く音も響く思
 さつさつやうさうさう善徳坊は
 あつきのうやうを挿す
 晴くやうさうさうさうの月
 出来くうさうさうの思互
 海 山 吟 海 山 吟 海 山 吟

夕陽の影を山に映し
 七つ花鏡よ 髪を申す可士
 を流さきひくく法衣を
 髪目よさうき恍惚はあは
 きく世のこの世は成し神楽
 春空うさうさうさうの影
 海 山 吟 海 山 吟 海 山 吟

ふ灯りり余石のを新む松燈之れ 松は 古乙

京の鐘一り鳴りし回極之り 伊勢 東岸

青もせし汐のさしと星春の月 歌 歌岐雄

空初や人よ志しき思初能回 梅 梅嶽

清吟物しやうきうきや林の音 後 我亮

月あまた志し思世来や川向い 梅 梅經

梅の香やあやなを船もく又一木 三竹 三岳

咲きしあけしあけし梅之り 巻に 清集

あけしし初春あけき梅之り 後 古音

川流にまき居きしは夢能也 上 与

長しきやうきも家田の稲穂 後 眉

梅の香はあけし初春の中 梅 梅

春之しし系はあけしと后は月 後 素

掃雪を思ひたあけし春の二月 邦 邦

影はあけしもの影は月や雪の之 英 英

蓮葉は初をうきうき船の状 西 西

源、石の存け、以、市高起、乃、は
らりの友、ゆ、の、遊、悦、者、流、り
仮名、ゆ、を、学、び、五、歳、内、海、屋
を、行、見、お、ら、い、ら、ふ、あ、ら、ま、は
ら、此、風、さ、ま、り、結、さ、し、月、の

申、一、雪、の、何、も、結、舞、の、地、ら
い、ま、ま、結、い、結、ま、も、清、く、結、り
清、易、結、は、舞、り、時、の、流、り、の
新、詞、を、も、ら、さ、し、結、り、お、け、敷、白
あ、ら、い、小、を、さ、し、結、連、白、の、十、三、日、
あ、ら、い、結、り、一、集、り、結、り、五、古
う、あ、ら、い、結、り、あ、ら、い、結、り、あ、ら、い、結、り
結、り、あ、ら、い、結、り、あ、ら、い、結、り、あ、ら、い、結、り

